

久喜地区文化財お散歩マップ解説集

撫山旧宅から甘棠院までを歩く

久喜駅



- 「風に見える街」
平成4年(1992)に齋藤馨氏によって制作される。
- JRは明治18年(1885)、東武は明治32年(1899)開業

久喜駅について

| | |
|--------------------|---|
| 明治5(1872)年 | 東京・横浜間に鉄道が開通する |
| 明治17(1884)年 | 榎本善兵衛・瀬田弥藤次・吉田元輔・土屋與市・榎本謙次郎らを中心に久喜駅の設置運動が展開される |
| 明治18(1885)年 1月12日 | 久喜本町と久喜新町の有志7名で、埼玉県令吉田清英に宛てて、「停車場敷地献納之儀ニ付上申」が提出される<武井家文書> |
| 1月 | 大宮・宇都宮間の鉄道建設工事が着工され、7月に完成(栗橋の利根川部分は除く)する |
| 7月16日 | 久喜停車場が開設される 大宮・宇都宮間が開通 |
| 明治19(1886)年 6月17日 | 栗橋・中田間の利根川橋梁が完成する<行政史> |
| 明治28(1895)年 7月15日 | 東武鉄道敷設を要望する陳情書がだされる<土屋家文書> |
| 明治29(1896)年 6月 | 東武鉄道の北千住・足利間の敷設申請の仮免状を得る |
| 明治31(1898)年 11月 | 東武鉄道の北千住・久喜間の建設工事が着工される |
| 明治32(1899)年 8月27日 | 東武鉄道の北千住・久喜間が開業する |
| 大正15(1926)年 12月16日 | 東武鉄道の粕壁・久喜間が電化される<東京日日新聞> |
| 昭和2(1927)年 4月1日 | 久喜・館林間の複線電化が開通する<東京日日新聞> |
| 昭和7(1932)年 9月1日 | 国鉄東北線の上野・大宮間の電化が完成する<朝日新聞> |

| | |
|-------------------|------------------------------|
| 昭和33(1958)年4月14日 | 国鉄東北線の大宮・宇都宮間が電化される |
| 昭和36(1961)年 | 久喜駅東口設置について東武鉄道に陳情する |
| 昭和45(1970)年11月20日 | 久喜駅橋上駅開通する（大宮以北では東北線で最初の橋上駅） |
| 昭和50(1975)年 | 東口駅前に派出所ができる |
| 昭和62(1987)年4月1日 | 日本国有鉄道が民有化しJ R東日本になる |
| 平成2(1990)年3月10日 | 上野・黒磯駅間の愛称がJ R宇都宮線となる |
| 平成13(2001)12月1日 | 湘南新宿ライン運転開始 |
| 平成18(2006)年3月18日 | 地下鉄半蔵門線が久喜駅まで乗り入れる |
| 平成24(2012)3月17日 | 「東武スカイツリーライン」という愛称がつけられる |
| 平成25(2013)12月 | J R宇都宮線が東京駅まで乗り入れる |
| 平成27年(2015)3月14日 | 上野東京ライン開業 |



昭和41年(1966)の久喜駅

(久喜市立郷土資料館『第4回特別展
懐かしいふるさとの風景』平成26年)

なか じま あつし

中島敦の説明板



- 平成23年（2011）、久喜・中島敦の会建立。
- 中島敦（1909～1942）は、中島撫山の孫にあたります。敦は明治44年（1911）にこの地へ引き取られ、6歳まで過ごしました。

かんばいしゅぞう

寒梅酒造



- 創業文政4年(1821)、初代鈴木平兵衛が酒造りを始めたとされる歴史ある酒蔵です。
- 久喜の地は米をはじめとする農作物に恵まれ、甘棠院の周辺の井戸水は酒造りに適していました。
- 現在も醸造は行われており、現社長で7代目となります。

ぶざんせんせいしゅうえんのちひ

①

「撫山先生終焉之地」碑

市指定文化財



- 幕末から明治期の教育者である中島撫山(1829～1911)は、明治6年(1873)に私塾「幸魂教舎(こうこんきょうしゃ・さきたまきょうしゃ)」を開くなど、久喜地域の教育において貢献しました。
- 昭和16年(1941)、撫山先生30年祭が催され、六男の田人(たびと)によって住居跡地に記念碑が建てられました。
- 作家中島敦は、田人の子で、撫山の孫にあたります。

〔訓読〕

先君(せんくん)諱(いみな)は慶(けい)、字は伯章(はくしょう)、号は撫山。文政十二年四月二日を以て江戸の亀戸に生る。年甫(はじめ)めて十四、初め贄(し)を亀田先生の門に執(とり)、綾瀬(りょうらい)鶯谷(おうこく)と号す。後に居を神田阿玉池(おたまがいけ)に移す。明治維新の際都下を去りて武の埼玉郡鹿室(かのむろ)に寓(ぐ)す。いくばくもなくして居を同郡久喜にトし、幸魂(こうどう)教舎を開き、郷党(こうとう)の子弟に教授す。爾来(じらい)四十余年、門に及ぶ者千数百人なり。明治四十四年六月二十四日家に歿(ぼつ)す。寿(とし)八十三なり。先君の学を講ずるや、皇道(こうどう)を以て主となし、之を助くるに六経仁義の教を以てす。曰(いわ)く、皇国惟神の大道は、ひとり漢土の聖人の伝ふる所の六経仁義の名教と克(よ)く之に協ふと。これ先君の学ぶ他のいはゆる漢学者流と大いに逕庭(けいてい)あるゆゑなり。今や先君世に即(つ)きてここに三十年なり。しかれども門人諸生の景慕(けいぼ)の念、昔日(せきじつ)に滅ぜず。ここにおいて相謀(あいわか)りて石を家の一隅に建て、刻して撫山中島先生終焉の地と曰(い)ひ、以て永く諸(こ)れを後昆(こうこん)に伝(つ)へんと欲す。ああ、師道の振るはざるの日、諸生の先君におけるや、その志、洵(まこと)に美にして且(か)つ異(こと)なりと謂(い)ふべし。

昭和十六年十一月 男 田人(たびと)謹(つつし)んで誌(しる)す

〔口語訳〕

亡父の諱は慶、字は伯章、号は撫山である。文政十二年四月二日、江戸の亀戸で生まれた。十歳歳のとき、はじめて亀田先生に弟子入りして、綾瀬・鶯谷の両先生につき従って学んだ。学問が成就し、私塾を両国の矢倉に開いて、演孔堂と称した。のちに住まいを神田お玉ヶ池に移した。明治維新の際に都下を離れて、武州埼玉郡鹿室にかりずまいをした。まもなく住まいを同じく埼玉郡久喜に定め、幸魂教舎を開いて、この地方の子弟に学問を教えた。以来四十余年間に入門した者は千数百人にのぼった。明治四十四年六月二十四日、家で亡くなった。享年八十三歳だった。亡父の学問の講義は、国学を中心しながら、儒学によって補うというものだった。亡父が言った。「わが国の神道は、中国の聖人の教えた儒教の道とよく一致する」と。これこそ亡父の学問が、他のいわゆる漢学者たちと大きく異っている理由である。いま、亡父が世を去ってから三十年がたつ。けれども門下生たちの尊敬の念は昔に劣らない。そこで門下生たちは相談して、石を家の片隅に建てて、「撫山中島先生終焉の地」と刻み、亡父の名を後世に伝えようとした。ああ、師について学び正しく師に仕える道の衰えた今日、亡父の門下生たちが亡父に向ける志は、きわめて美しく、またすぐれていると言うべきである。

昭和十六年十一月 息子の田人が謹(つつし)んでこの文章を記す。

(藤森 敦 訳注)

(鷺宮町教育委員会『鷺宮町教育委員会調査報告書第二集 中島撫山小伝』昭和58年)

②ー1 久喜中央コミュニティセンター (御陣山遺跡・久喜陣屋跡)



- 現在の久喜中央コミュニティセンターは縄文時代を中心とした遺跡である御陣山遺跡の範囲内にあります。
- また、この場所を西南角にした一帯には、江戸時代に徳川家譜代の家臣である米津(よねきつ)氏(久喜藩)の陣屋がおかれました。
- 以後、米津氏は領地を出羽国へ移すまで久喜の地を治めました。

御陣山遺跡略年表

| | | |
|---------|----------|----------------|
| 7,000年前 | 縄文時代早期後葉 | 茅山上層式土器 |
| 6,000年前 | 前期初頭 | 花積下層式土器 |
| | 前期前葉 | 関山式土器 |
| | 前期後葉 | 浮島式土器 |
| 4,000年前 | 中期後葉 | 加曾利E式土器 |
| 3,500年前 | 後期初頭 | 称名寺式土器 |
| | 後期前葉 | 堀之内式土器 |
| | 後期中葉 | 加曾利B式土器 |
| | 後期後葉 | 安行I式土器 |
| | 後期後葉 | 安行II式土器（住居跡3軒） |
| 2,500年前 | 晩期初頭 | 安行III式土器 |
| 2,100年前 | 弥生時代中期中葉 | 須和田式土器 |

| | |
|-----------|------------------------|
| 正安3(1301) | 正安3年銘、板石塔婆が出土 |
| 康安2(1362) | 康安2年2月2日銘、阿弥陀一尊板石塔婆が出土 |
| 貞治4(1365) | 貞治4年11月銘、板石塔婆が出土 |
| 応安3(1370) | 応安3年銘、阿弥陀一尊板石塔婆が出土 |
| 永享8(1436) | 永享8年8月銘、板石塔婆が出土 |
| 大永〇(152-) | 大永銘、板石塔婆が出土 |

| | |
|-------------------|---|
| 慶長6(1601) | 伊達藩が久喜鷹場を家康から与えられる<慶長見聞録> この頃久喜新町付近に鷹場御殿が建てられる<伊達鷹場絵図> |
| 元和2(1616) | 12月1日、伊達政宗が久喜鷹場に狩し、その後慣例となる<台徳院実記> |
| 寛永2(1625) | 12月6日、徳川秀忠、越ヶ谷で放鷹、この折、久喜鷹場にいる伊達政宗に奉書を送る<大猷院実記> |
| 寛文元(1661) | 伊達4代藩主の時、幼少ということで、鷹場を幕府に返上する<仙台博物館文書> |
| 貞享元(1684) | 米津正武、前沢村（現東久留米市）から居所を久喜に定める<寛政重修諸家譜> |
| 2(1685) | 8月9日、正武初めて久喜を訪れる<寛政重修諸家譜> |
| 元禄11(1698) | 11月11日、米津政矩、家督を相続<寛政重修諸家譜> |
| 14(1701) | 2月28日、政矩初めて久喜を訪れる<寛政重修諸家譜> |
| 16(1703) | 3月23日、米津政容、家督を相続<寛政重修諸家譜> |
| 宝永6(1709) | 8月15日、政容初めて久喜を訪れる<寛政重修諸家譜> |
| 元文4(1739) | 9月27日、米津政崇、家督を相続<寛政重修諸家譜> |
| 延享2(1745) | 8月15日、政崇初めて久喜を訪れる<寛政重修諸家譜> |
| 明和4(1767) | 10月11日、米津通政、家督を相続<寛政重修諸家譜> |
| 明和5(1768) | 8月15日、通政初めて久喜を訪れる<寛政重修諸家譜> |
| 天明3(1783) | 7月7日、浅間山が大噴火し、火山灰が堀から検出 |
| 寛政10(1798) | 7月6日、米津氏、居所を久喜から長瀬（現山形県東根市）に移す<寛政重修諸家譜> この地域は幕府の直轄地となる<新編武蔵風土記稿> |

| | |
|-------------|---|
| 寛政 12(1800) | この地域は松前志摩守章広の領地となる<新編武蔵風土記稿> |
| 享和元(1801) | 5月19日、早川八郎左衛門正紀が久喜に赴任する<遷善館記> |
| 文化元(1804) | 直轄地となる<武蔵国郡村誌> |
| 文化 5(1808) | 11月10日、早川八郎左衛門没する(70)<早川君遺愛碑> |
| 文化 8(1811) | 久喜町は直轄地、一部旗本島田玄蕃<武蔵国郡村誌> |
| 文政 3(1822) | 吉岡治郎右衛門支配中に遷善館が廃止する<埼玉県史料叢書IV> |
| 文政 7(1824) | 久喜町は清水家、島田玄蕃<武蔵国郡村誌> |
| 安政 2(1855) | 久喜町は直轄地、島田玄蕃<武蔵国郡村誌> |
| 明治元(1868) | 天領、旗本島田玄蕃<旧高旧領取調帳> |
| 明治 20(1887) | 4月1日、久喜高等小学校が、光明寺からこの地へ移転<五縣新聞> |
| 43(1910) | 4月9日、久喜裁縫女学校(久喜高校の前進)が高等小学校内に開設<国民新聞> |
| 大正 2(1913) | 尋常小学校が現在地(本町2丁目)に移転 |
| 大正 8(1919) | 1月9日、久喜裁縫女学校が久喜実科高等女学校となる<東京日日新聞> |
| 9(1920) | 3月30日、久喜高等小学校廃止認可<県行政文書> |
| 10(1921) | 3月29日、実科女学校が久喜高等女学校となる<東京日日新聞> |
| | 8月30日、久喜高等女学校が現在地(本町3丁目)へ移転<久喜高校沿革> |
| 昭和 2(1927) | 2月8日、久喜町に蚕業取締支所が開設<東京日日新聞> |
| 4(1929) | この地に久喜町役場落成<統計くき> |
| | 11月19日、蚕業取締所久喜支所着工<東京日日新聞><久喜町だより> |
| 22(1947) | 4月1日、蚕業技術指導所を新設する<埼玉県蚕糸業史> |
| 29(1954) | 町村合併により、久喜町・太田村・江面村・清久村が合併し、役場がこの地に置かれる |

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 34(1959) | 役場が全面的な改築がなされる<久喜市庁舎建設の記録> |
| 37(1962) | 南埼玉郡蚕業指導所が廃止<久喜町だより> |
| 46(1971) | 10月1日、市制施行により市役所となる |
| 47(1972) | 3月25日~31日、御陣山遺跡第1次発掘調査 |
| 51(1976) | 11月21日~25日、荒鎌遺跡発掘調査 |
| 52(1977) | 2月16日、本町郵便局開局 |
| 55(1980) | 9月8日、市役所が現在地(下早見85-3)へ移転し、中央公民館となる |
| 56(1981) | 7月6日~57年1月30日、第2次発掘調査 |
| 57(1982) | 7月12日~12月14日、第3次発掘調査 |
| 61(1986) | 10月6日~11月18日、第4次発掘調査 |
| 平成元(1989) | 7月4日~9月8日、第5次発掘調査 |
| 2(1990) | 2月28日~3月16日、第6次発掘調査 |
| | 9月18日~12月13日、第7次発掘調査 |
| 3(1991) | 5月1日、中央公民館新築オープン |
| 5(1993) | 8月10日~9月22日、第8次発掘調査 |
| | 12月25日、西停車場線中央公民館まで開通 |
| 6(1994) | 3月3日~3月22日、第9次発掘調査 |
| | 6月15日~7月26日、第10次発掘調査 |
| 7(1995) | 2月13日~3月24日、第11次発掘調査 |
| 8(1996) | 1月22日~3月7日、第12次発掘調査 |
| 9(1997) | 前谷・五領線中央公民館から本町郵便局北東の信号まで16m道路開通 |

②-2 久喜中央コミュニティセンター内の 展示



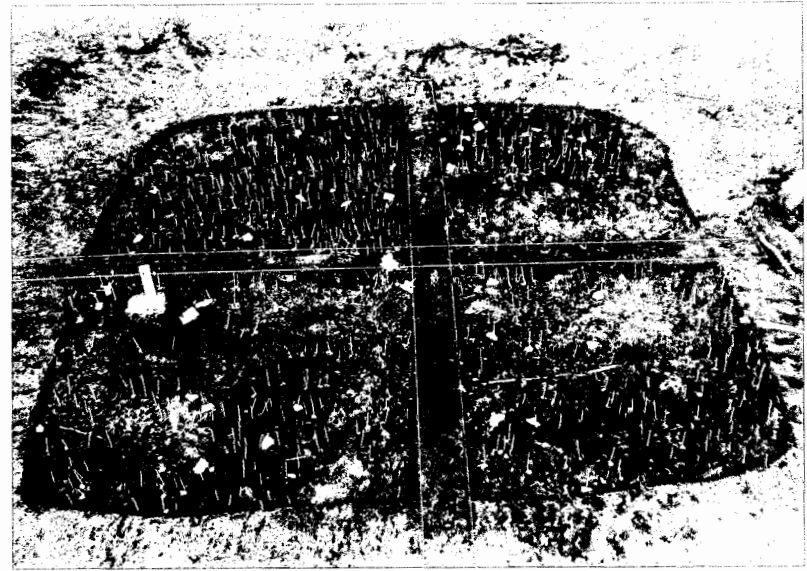
- 御陣山遺跡の出土品の一部は久喜中央コミュニティセンターに展示されています。



御陣山遺跡の掘（3・6号掘）



御陣山遺跡の掘全景



御陣山遺跡の第1号住居跡遺物出土状態



御陣山遺跡の第1号住居跡



御陣山遺跡の第2号住居跡

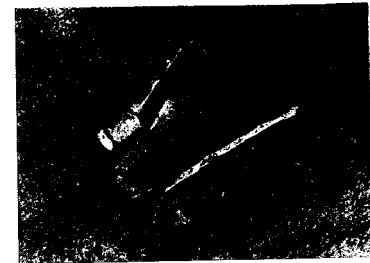


御陣山遺跡の第3号住居跡

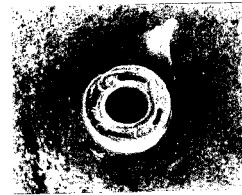
久喜市教育委員会『御陣山遺跡（第2・3次発掘調査）』（昭和62年）



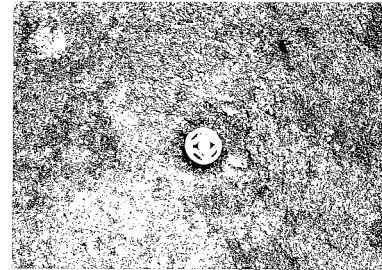
1



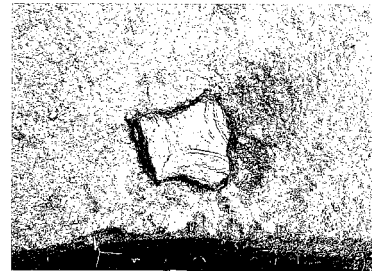
2



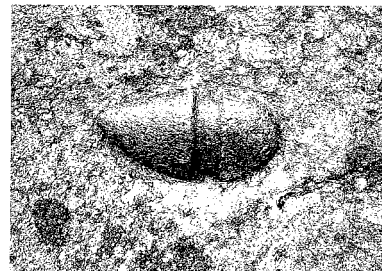
3



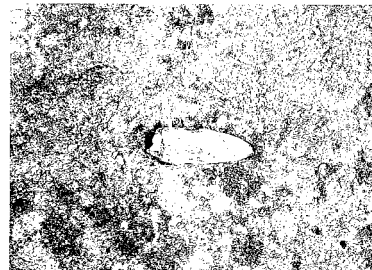
4



5



6



7



8

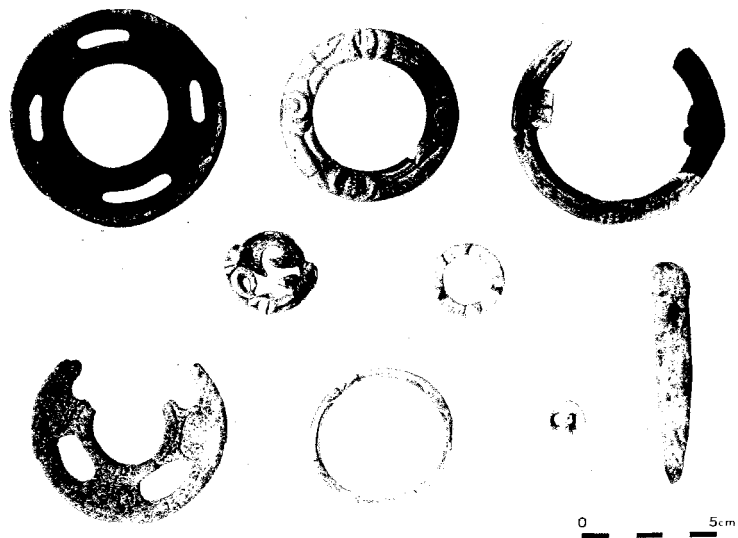
1. 注口土器出土状態
2. 土器出土状態
（8号土壙）
3. 耳飾出土状態
（第1号住居跡）
4. 耳飾出土状態
（第11次）
5. 土版出土状態
（第10次）
6. 独鈷石出土状態
（第9次）
7. 独鈷石出土状態
（第9次）
8. 石剣出土状態
（第10次）

1～3は久喜市教育委員会『御陣山遺跡（第2・3次発掘調査）』（昭和62年）

4～8は久喜市教育委員会『御陣山遺跡（第8～12次発掘調査）』（平成12年）



御陣山遺跡出土の土偶



御陣山遺跡出土の装身具

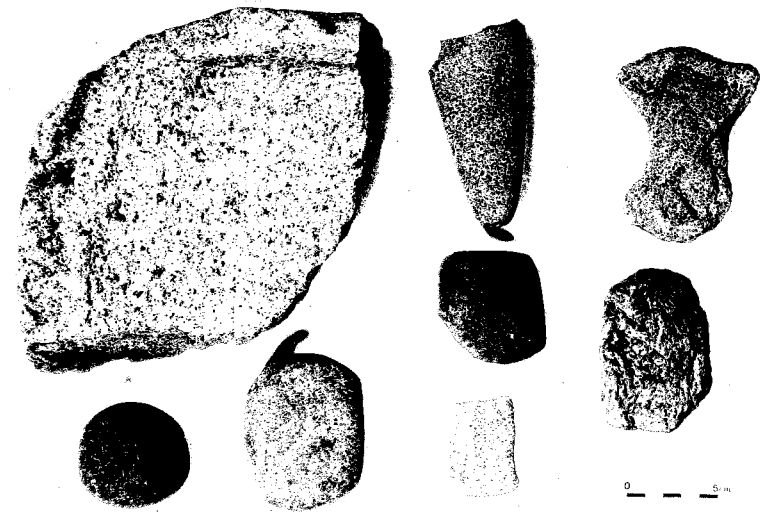


御陣山遺跡出土の石器 (石鏃、垂飾、小玉)





御陣山遺跡出土の石器



御陣山遺跡出土の石器



康安2年
(1362)



応安3年
(1370)



年未詳

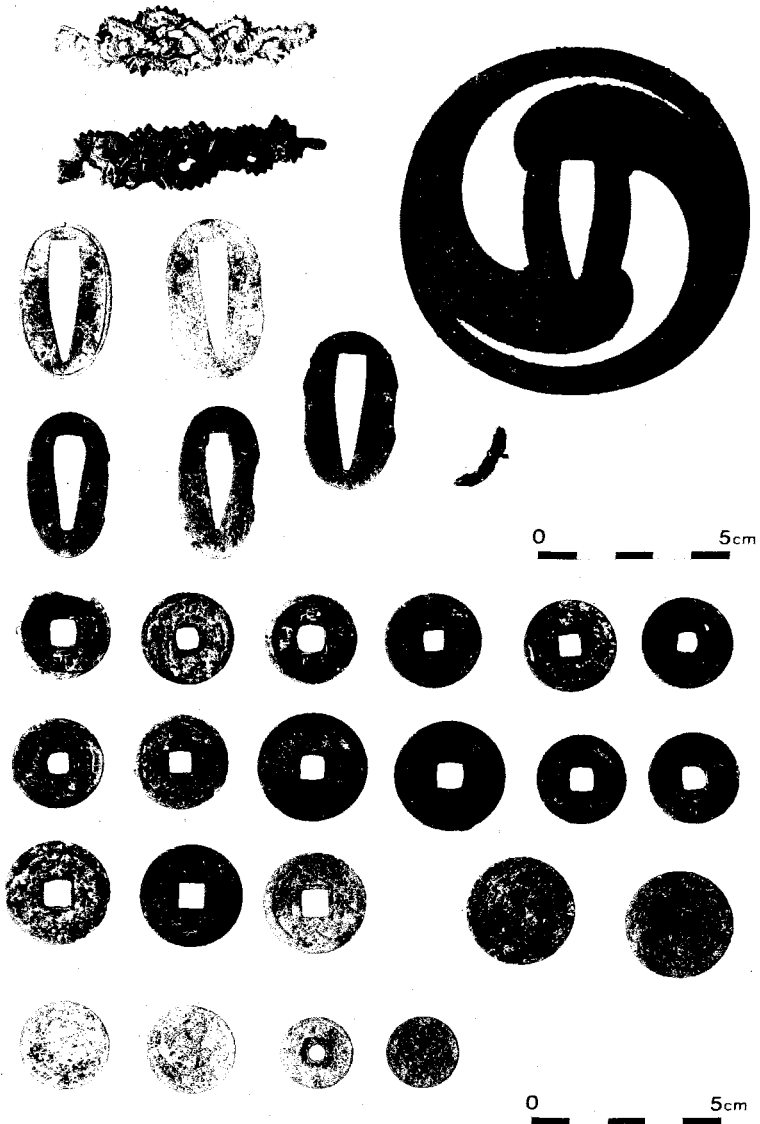


貞治4年
(1365)

※光明真言あり

御陣山遺跡出土の板石塔婆

左上は久喜市教育委員会『御陣山遺跡（第8～12次発掘調査）』（平成12年）。ほかは久喜市教育委員会『御陣山遺跡（第2・3次発掘調査）』（昭和62年）



御陣山遺跡出土の刀装具と古銭・貨幣

久喜市教育委員会『御陣山遺跡（第2・3次発掘調査）』（昭和62年）

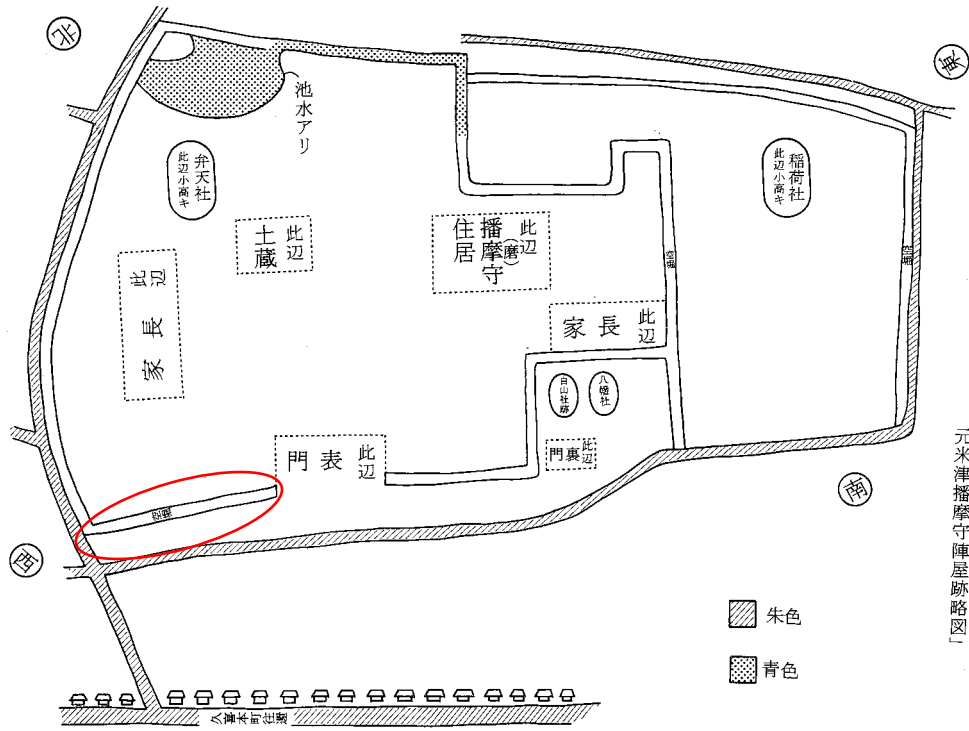


26・27号堀土層（第7次）

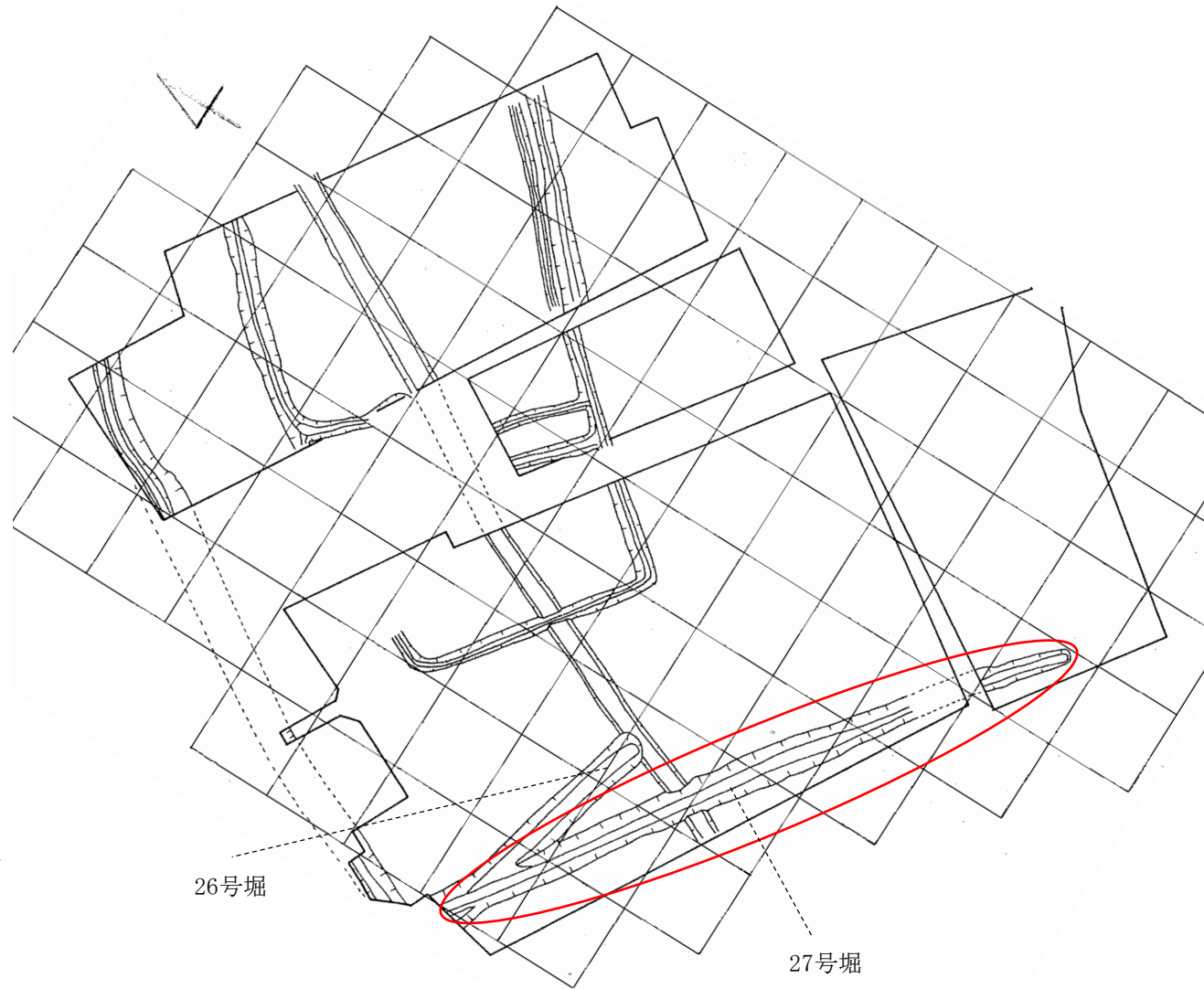


27号堀土層（火山灰層）

久喜市教育委員会『御陣山遺跡（第4～7次発掘調査）』（平成6年）



〔行巻〕
埼玉県第九区
埼玉郡久喜本町
元米津播摩守陣屋跡略図



御陣山遺跡の堀平面図

埼玉県蚕業取締所久喜支所



久喜高等小学校の校舎増築（久喜市・明治29年）

『目で見る 久喜・幸手・蓮田の100年』
平成19年 郷土出版社



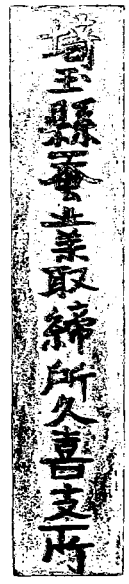
場後町久喜

『久喜町地図』昭和12年

埼玉県蚕業取締所は蚕病予防、蚕種製造者免許、蚕種品種管理などの事務を行う県の事務所です。久喜における蚕業取締所は、大正9年（1920）に蚕業取締所浦和支所久喜出張所が設置されたことにはじまります。しかし、この出張所は大正14年（1925）、南埼玉郡に岩槻支所、北葛飾郡に杉戸支所が設立されたことで廃止となりました。

昭和4年（1929）になると、岩槻・杉戸両支所が合併して久喜支所となり、再び南埼玉・北葛飾両郡の事務を行うようになりました（庁舎竣工は昭和5年）。

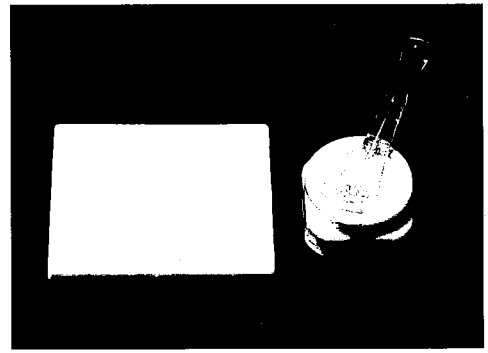
昭和20年（1945）に久喜支所は一時的に春日部へ移転しますが、翌年久喜へ戻ります。昭和25年（1950）には栢間村にあった南埼玉郡蚕業技術指導所が久喜へ移転し、蚕業取締所支所と併設になります。昭和30年（1955）には蚕業取締所支所と蚕業技術指導所が統合して蚕業指導所となりましたが、城内の養蚕農家が減ったため、昭和37年（1962）に廃止となりました。



蚕業取締所久喜支所門標

昭和5年（1930）頃

埼玉県蚕業取締所久喜支所の門柱に掲げられていた看板です。昭和5年（1930）に支所の庁舎が竣工した際のものと考えられます。



微粒子病検査道具

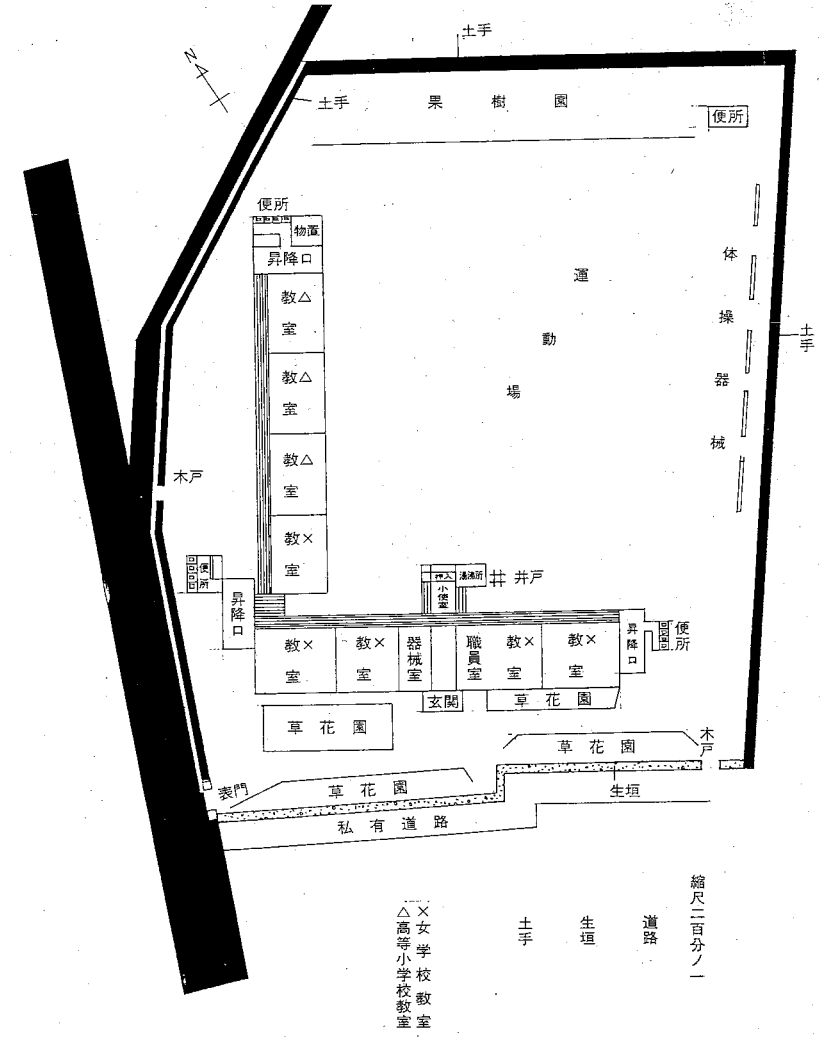
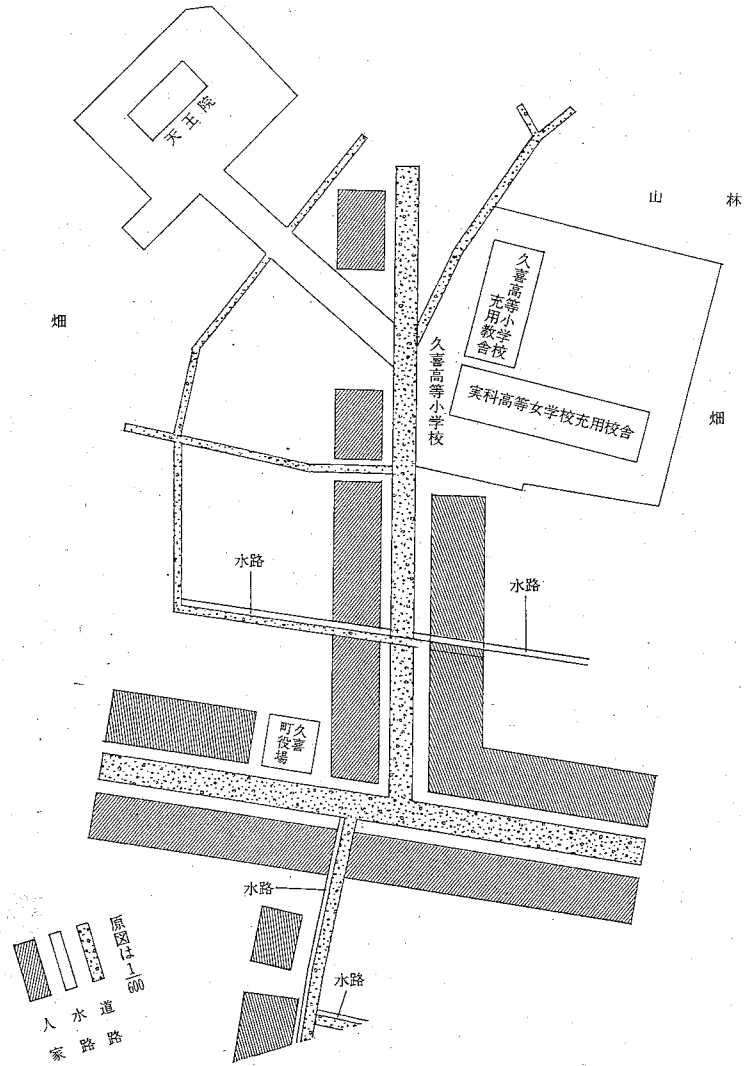
蚕業取締所久喜支所（あるいは蚕業指導所）で使われていた微粒子病の検査道具です。

微粒子病は蚕の病気で、微粒子病原菌の胞子が体に入ることによって起こります。皮膚に黒く小さな粒々が見えるようになるので、微粒子病といわれます。微粒子病にかかると、蚕は死んでしまいます。

母蛾が感染していると、産んだ卵にも胞子が移り、子供は感染した状態で産まれてきて、やがて死んでしまいます。また、蚕の糞から他の蚕に胞子が移っていくなど感染力が非常に強く、蚕が全滅してしまうこともあります。ヨーロッパでは19世紀半ばに微粒子病が大流行し、壊滅的な被害を受けました。

微粒子病の検査は、卵を産んだ母蛾をすりつぶし、顕微鏡で微粒子病の胞子を確認します。見つかった場合には、卵は燃やしてしまい、微粒子病が広まらないようにします。

『紫草 創立七十周年記念誌』平成4年
 埼玉県立久喜高等学校創立七十周年記念誌編集委員会編



③ー1 てんのういん 天王院



- 天王院の創建は大永3年（1523）、妙鑑によって開かれたと伝えられる寺院です。（武蔵国郡村誌）



寺号額

や くも じん じゃ

③-2 八雲神社

市指定文化財 八雲神社の神輿



- 八雲神社は旧久喜町の総鎮守で、天王様・提灯祭はこの八雲神社の祭典です。
- 八雲神社の神輿は、言い伝えによると文化年間(1804～1818)に新調されたといわれています。
- 現在の神輿は、元治元年(1864)に新調したもので、160両で購入したものです。

久喜市指定有形文化財 八雲神社の神輿

指定年月日 昭和五十三年十一月十七日
所在地 久喜市本町一丁目二二四番地

八雲神社の祭礼は、久喜の夏祭りとして古くから行われており、「天王様」「提灯祭」または「けんか祭」とも言われ、毎年七月十二日から十八日まで行われている。祭礼には、この神輿がお仮屋に安置され祭の中心となる。各町内からは昼は人形山車が、夜には提灯山車に姿をかえた山車が繰り出され、祭りに華やかさをそえる。

八雲神社は、もと天王宮と称し、隣接の曹洞宗天王院の別宮として祀られたが、明治初めの神仏分離により八雲神社と改称した。神社の由緒書によると、江戸時代、久喜藩主米津氏の尊信をあつめたということで、奉額や社殿の修繕の事が記されている。享保年中（一七一六～一七三六）に社殿の再建がなされ、文化年中（一八〇四～一八一八）に神輿が新調され、天保四年（一八三三）に修理されたともある。

現在の神輿は「天王宮御神輿諸払覚帳」によると、元治元年（一八六四）六月に一六〇両で購入したと記載され、江戸から船を利用して運ばれたとある。

また、昭和五十五年（一九八〇）には、多くの市民の協力により全面的修理がなされている。



高さ 二五〇㎜
幅 二二〇㎝
奥行 一五〇㎝

平成二十五年三月二十一日

久喜市教育委員会

ちょうちんまつ

関東一と称される 提燈祭り 市指定文化財



昼の人形山車

- 久喜八雲神社の山車行事(天王様・提灯祭)
- 毎年7月12日から18日までは八雲神社のお祭りで、昔から天王様と呼ばれ親しまれてきました。
- 昼間は、神話などから題材をとった人物の人形を山車の上に飾り立て町内を曳きまわします。



夜の提灯山車



提灯祭り絵馬 明治30年 (1897)

- 夜になると、山車は約500 個の提灯を飾り付けた提灯山車にかわり、お互いに山車を急接近させて挑発しあったり、山車を力いっぱい回転させて、祭りは最高潮に達します。
- 天明3 年(1783)の浅間山の大噴火により、久喜は降灰で農作物が全滅するなど大きな被害を受けました。この悲惨な状況から立ち直ろうと、祭礼用の山車を借りて町内を引き回したのが提灯祭りの始まりとされています。
- 本町の千勝神社には天王様の様子を描いた絵馬が伝わっています。

かん とう いん

④-1 甘棠院



- 永正16年(1519)の創建と伝える寺です。
- 第2代古河公方の足利政氏(まさうじ)が、古河から久喜へ移り住み、隠遁した館を寺院としたもの。
- 寺名は永安山甘棠院、開山は政氏の子(一説には弟)の貞巖昌永(ていがんしょうえい)。
- 境内には政氏の墓があります。館の範囲は東西140m、南北250mに及んだとされ、現在も北・西・南の三方に空堀が残ります。

あし かが まさ うじ はか

④ー2 足利政氏の墓

県指定文化財



- 県指定文化財 足利政氏館跡及び墓
- 墓は享禄4年(1531)
「享禄四年七月廿八日」
「甘棠院殿吉山長公大禅定門」

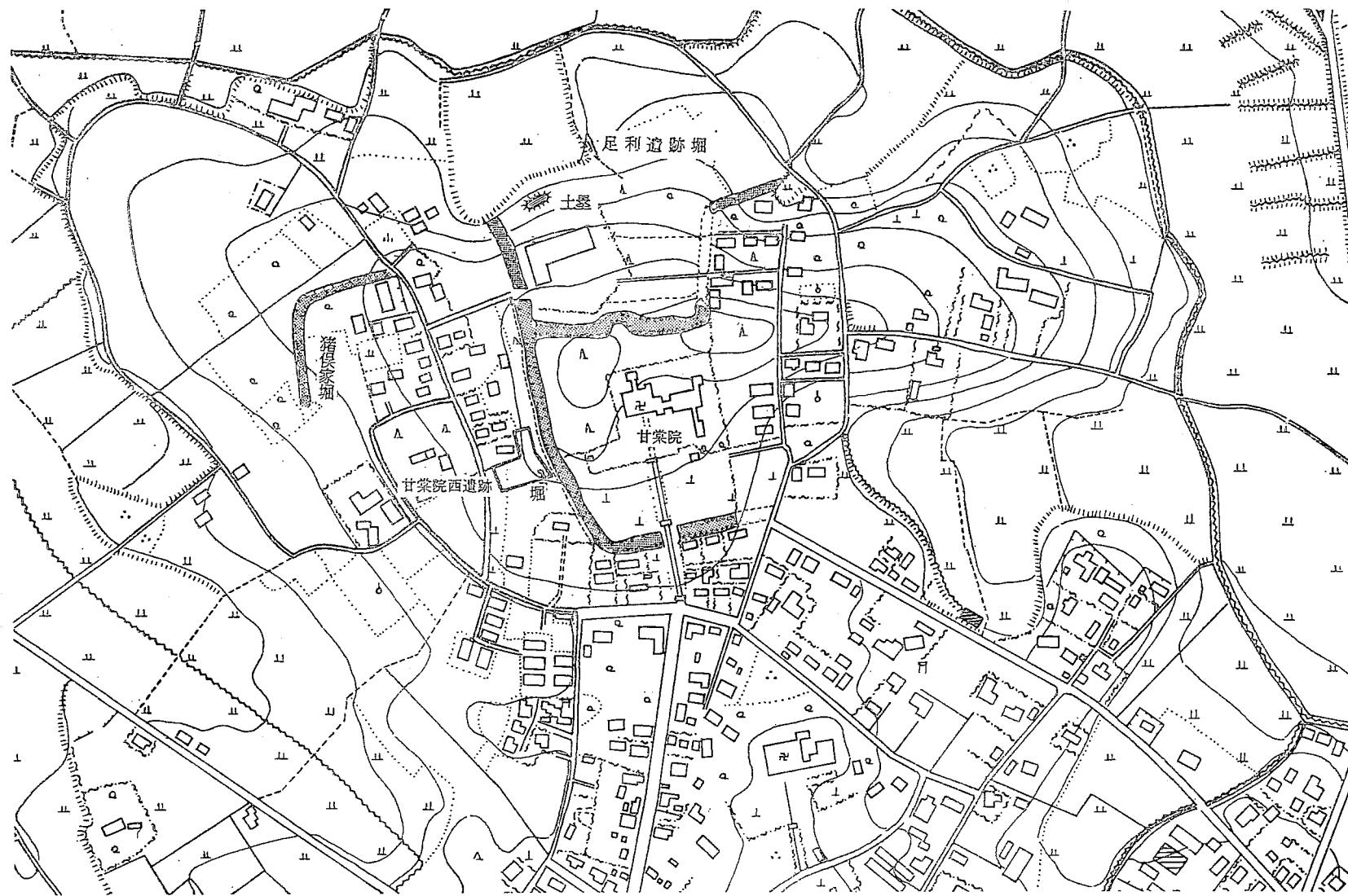
あし かが まさ うじ やかた

から ぼり

④—3 足利政氏館跡の空堀



- 堀は、幅約9m・深さ約5mで箱薬研堀(はこやげんぼり)。東西140m・南北250m

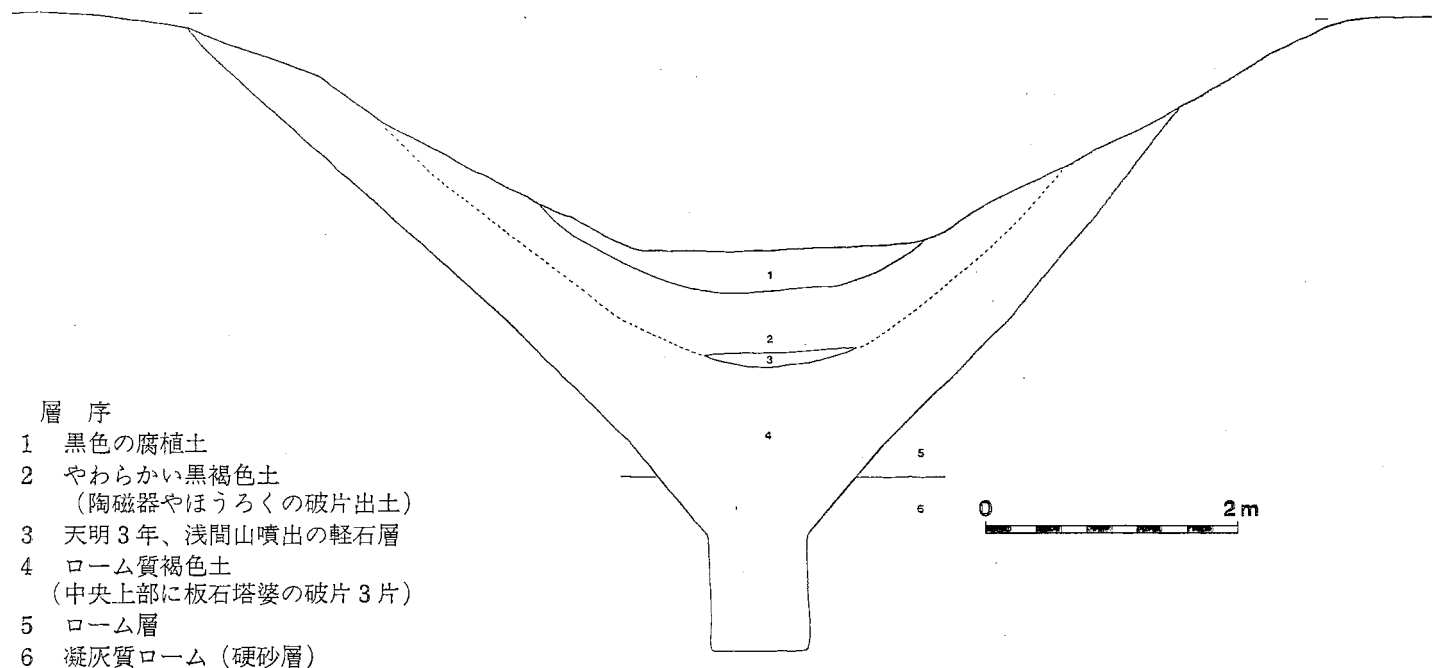


堀
 土塁

第42図 足利政氏館周辺図



久喜市教育委員会『甘棠院西遺跡・荒鎌遺跡』（昭和59年）



第43図 足利政氏館跡濠断面図(中央濠東側)(1/60)

なか じま ぶ ざん はか

⑤-1 中島撫山の墓

市指定文化財

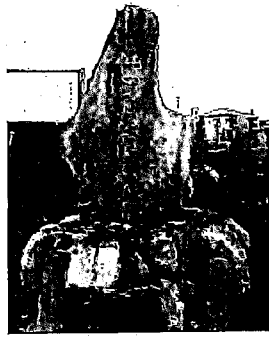


- 市指定文化財 撫山中島先生之墓
- 光明寺の一画には神道式の中島撫山の墓があります。
- 中島撫山 明治44年(1911)没

連載 久喜歴史だより(第49回)

泰山頽ちて梁木壊る

「中島撫山の墓」とその一族



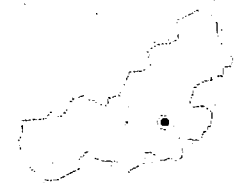
▲中島撫山の墓

久喜市本町一丁目の光明寺に、中島撫山の神式の墓があり、市の有形文化財に指定され、撫山先生の略歴を記した案内板も設置してあります。

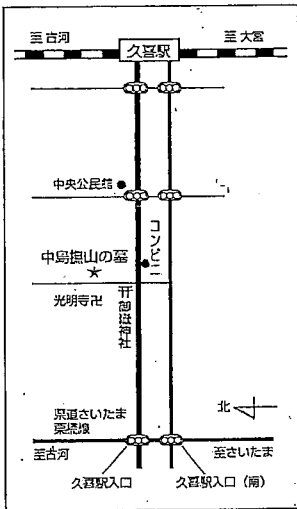
中島撫山は、明治44年(1911)6月24日に亡くなり、同月27日に埋葬されました。

現在、市公文書館に保存されている拓本から、孫の蹟臣(長男靖の子)撰文の墓誌も一緒に埋められたことが分かっています。蹟臣は、祖父の死に対して、孔子が自分の死を予知して歌った「泰山頽ちて梁木壊る」の言葉を用いて、その功績を称えています。墓域には、撫山の墓のほかにも、①撫山の妻、②・③撫山の妹・弟、④・⑤撫山の長男靖とその妻子、⑥撫山の六男田人の子など、9基の墓に、総勢10人の方が撫山と一緒に静かな眠りについています。

それぞれの墓に彫られた文字と人間関係は、おおむね次のとおりです。



- ①「撫山先生配亀田氏之墓」(撫山の後妻よし「きくともいう」の墓)
 - ②「うた刀自のはか」(撫山の実妹有多の墓)
 - ③「杉陰中嶋先生之墓」(撫山の異母弟榮之甫の墓。当時南画家として活躍した人物です)
 - ④「綽軒中嶋先生之墓」(撫山の長男靖の墓。現在の栃木市内に明誼学舎を設立し、地元の教育に活躍した人物です)
 - ⑤「麻須刀自墓」(靖の先妻麻須「やすともいう」の墓)
 - ⑥「綽軒先生配小林氏之墓」(靖の後妻美津の墓)
 - ⑦「やへ長兄のはか」(靖の長女八重の墓)
 - ⑧「關雄墓」(靖の長男関雄の墓)
 - ⑨「中島敬・敏両兒墓」(田人の子どもの敬と敏の二人の墓)
- 「中島撫山の墓」を訪れた際に、その一族の墓にも目を向けてみると、新しい発見があるかもしれません。



問合せ 文化財保護課文化財・歴史資料係(菖蒲総合支所内/内線372)

こう みよう じ やく し どう

⑤ー2 光明寺薬師堂



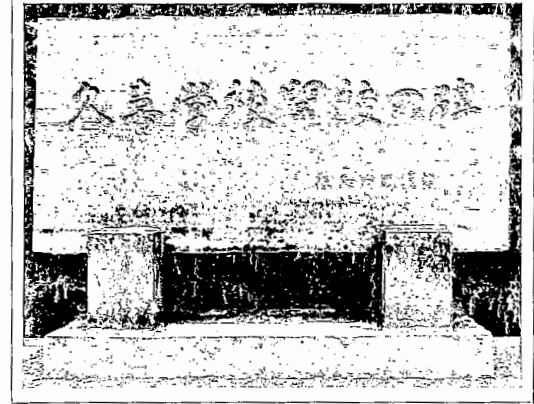
- 行基の開山とも伝わる真言宗豊山派の寺院です。
- 薬師堂では毎年1月5日に、薬師信仰者による、「どらなわ」と呼ばれるしめなわのかけかえが行われます。

⑤—3 久喜学校開校の碑



- 光明寺の一画には久喜学校開校の碑があります。
- 昭和38年(1963)に久喜町立久喜小学校満90年記念事業委員会が建立したものです。

本町 光明寺



(正面)

久喜学校開校の碑

佐久間鎮雄書

(裏) 「久喜学校開校の碑」について

開校満九十年の伝統^{デント}ある、わが久喜小学校は「村に不学^{フガク}の戸^コなからしめ、家に不学^{フガク}の人なからしめる」という、明治新学制の理想と、郷学^{キョウガク}「遷善館^{イゼン}」の遺風^{イソウ}を受け継ぎ、この光明寺を仮校舎として、明治六年一月の「久喜学校」の開校に始まった。茅葺きの本堂を四教場に仕切り、障子をめぐらし、暗い日は石油ランプをともし、けんめいに学業に励んだ、男女計七十七名の生徒が、われわれの最初先輩であった。

それより約四十年間、大正二年三月三十日、本校が現在地に移転するまで、この狭い境内を運動場に、ほの暗い寺の杉木立を遊びの庭として、多くの先輩は、わが郷土久喜町のよき先達としての研鑽を、この校舎で積み重ねて行ったのである。

この「久喜学校開校の碑」は、本校のこのような光明寺仮校舎時代の、先師教導先輩の研学寺門の協力を追慕し、本校発祥の芳域を世に顕彰し、またその薫績を後代に伝えるため、関係者一同協議して、大きな喜びの中に建設したものである。

終りに、わが久喜小学校の校運隆昌いよいよなることを祈ってやまない

昭和三十八年十二月吉日

久喜町立久喜小学校満九十年記念事業委員会

服部忠男

施工

木村一郎